
メ〜テレ 狩野隆也社長 定例会見
春のキャッチフレーズは「春だし、進メ〜ロメロ！」
朝夕の「ドデスカ!」「ドデスカ+」をリニューアル
地元とのつながりをさらに強化

メ〜テレ（名古屋テレビ放送）は、3月21日（金）に狩野隆也（かの・たかや）社長の定例会見を開き、番組のリニューアルやイベント、映画事業など、メ〜テレの春からの取り組みについて発表しました。



メ〜テレ 狩野隆也社長



狩野社長の冒頭あいさつの内容は以下の通りです。

狩野でございます。日頃から皆さま方には格別のご支援をいただき、誠にありがとうございます。

会見の内容に入る前に、中居正広氏とフジテレビに関する一連の問題について、一言申し上げます。

この問題については、フジテレビのみならず、放送業界全体のコンプライアンスやガバナンスに対して厳しい目が注がれていると認識しています。

一連の報道を受けて、メ〜テレでは「番組制作に関係した食事会等における不適切な行為」がなかったかどうか、アナウンサーおよび番組制作に密接にかかわる部署に所属する社員にヒアリングを行いました。結果、報道されているような一連の事案と同様の例は確認されませんでした。

一方で、ヒアリングをきっかけに、食事会のあり方等について意見も寄せられました。こうした意見には真摯に対応し、引き続き、状況の把握に努め、適切に対応してまいります。

また、今月末とされているフジテレビの第三者委員会の調査結果についても注視し、他人事して捉えるのではなく、当社として改善すべき点がないかなど、検討していきたいと思っております。

始めに視聴率から報告させていただきます。

2024年度の視聴率は3月30日をもって確定しますが、3月18日の時点で、個人全体視聴率は「プライム帯」がトップで推移しています。このままトップで終了できれば、2013年度以来11年ぶりとなります。

「全日帯」「ゴールデン帯」については現状2位で推移しています。

続いて、今期の決算の見込みについてご説明します。当社は3月決算です。

国際情勢は、長期化するウクライナ侵攻、イスラエル・パレスチナ問題に加え、アメリカのトランプ政権による様々な「ディール」提案が分断と不透明感に拍車をかけています。

日本経済はこうした影響に加え、原材料不足とコスト高騰、各種値上げなどの影響長期化に、自然災害の続発など不安要素が多くなっています。そうした状況ではありますが、テレビ広告市況は活発な企業活動の後押しが大きく、当社の今期決算は、3期ぶりの増収増益となる見込みです。

詳細につきましては、5月下旬頃、決算が確定した後に、経済記者クラブで説明させていただく予定です。

メ〜テレグループが去年4月にスタートした中期経営計画では、取り組む事業領域を「メディア事業」「エンタテインメント事業」「エリアソリューション事業」の3つと決めました。

開始からまだ1年ではありますが、視聴率の順位向上など、メディア事業を中心に成果を出しつつあります。

放送を取り巻く環境が変化していく中、メ〜テレグループがメディアとしての使命を果たし続けるため、来期も各事業においてさらに取り組みを推進して参ります。

まず「メディア事業」では、朝夕のベルト番組、「ドデスカ!」「ドデスカ+(プラス)」について、引き続き地域に飛び出し、地元とのつながりをさらに強いものにするべく、リニューアルしてまいります。

朝の「ドデスカ!」では、MCの島津咲苗アナウンサーや、入社2年目の大財英寿アナウンサーの新コーナーがスタートします。

夕方の「ドデスカ+」では、阿佐ヶ谷姉妹が地元の話題のスポットを体当たりでレポートする特集がスタートします。また、新たなコメンテーターとして幅広い人気を持つ小島よしおさんを迎え、東海3県を明るく盛り上げます。

「エンタテインメント事業」では、今回で3回目となる「秋山歌謡祭 2025」が今夜放送となります。

毎回 SNS などで大きな話題となりますが、今回も過去2回を上回る充実した内容となっています。「秋山歌謡祭」につきましては、放送に留まらない新たな展開についても企画が進んでいます。

また、メ〜テレが力を入れている映画事業につきましては、6月に富永昌敬さん監督、深川麻衣さん主演の、京都を舞台にしたメ〜テレが主幹事社となる映画『ぶぶ漬けどうどす』が公開されます。

また、今週月曜に発表されましたが、同じく当社が主幹事社の映画『佐藤さんと佐藤さん』が、香港国際映画祭にノミネートされました。

名古屋大学出身で、監督としての手腕が注目されている天野千尋さんの最新作です。この秋の公開が決定しましたのでご期待ください。

以上が、この春からのメ〜テレの主な取り組みになります。ご清聴ありがとうございました。